

令和 8 年度

「運営に関する計画」

大阪市立大成小学校

令和 8 年 4 月

大阪市立大成小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、教育目標「豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもの育成」のもと、自ら学び、心身ともに成長する児童の育成をめざし、学校運営に取り組んでいる。

生活面においては、生活指導の充実や健康教育・栄養教育の推進により、児童は全体として落ち着いて学習に取り組み、暴力行為も見られず、規範意識も向上している。ピア・サポート活動の継続的な取組により、自尊感情や自己有用感の育成に一定の成果が見られるものの、依然として自己肯定感の低さが課題である。また、全国学力・学習状況調査や学力経年調査の児童質問紙、校内アンケートでは、「学校は楽しい」「いじめはいかなる理由があってもいけない」「困っている人を助けたい」といった項目で全国及び大阪市平均を上回り、学校生活への満足感や思いやりの心の育成がうかがえる。「先生は自分のよいところを認めてくれている」と感じている児童の割合も高く、教職員との信頼関係は本校の強みである。一方で、不登校や不登校傾向の児童も複数名おり、登校状況の改善に向けて、担任や関係教職員が連携し支援に努めている。

学習面では、児童は落ち着いた態度で授業に参加し、意欲的に学ぶ姿が見られる。令和 7 年度大阪市学力経年調査の結果は、学年や教科による差はあるものの、市平均と同程度であった。特に社会・理科や思考・判断・表現の観点で成果が見られる一方、国語の読解力や記述力には改善の余地がある。また、児童質問紙では、すべての教科において「勉強が好き」と答える割合が全国及び大阪市平均を上回り、学習意欲の高さがうかがえる。しかし、授業における ICT 機器の活用に対する児童の実感は低く、改善が必要である。さらに、「読書が好き」「運動が好き」とする児童の割合も高く、読書活動や体力向上の取組の成果が表れている。

今後は、これまでの取組を継承・深化させるとともに、教育活動の一層の充実をめざす。また、令和 14 年度の適正配置に向け、円滑に統合が進められるように、関係校及び区役所などの関係諸機関と連携し、児童同士、教職員同士の交流の場を、無理なく効果的に進められるようにする。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和 8 年度～令和 11 年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、90%以上にする。
(令和 7 年度 89.3%)
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
(令和 7 年度 100%)
- ・令和 8 年度～令和 11 年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、77%以上にする。
(令和 7 年度 76.6%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。
- ・令和 8 年度～令和 11 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 55%以上にする。
(令和 7 年度 54.2%)
- ・令和 8 年度～令和 11 年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答をする児童の割合を 92%以上にする。(令和 7 年度 91.1%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和 11 年度の小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を 80%以上にする。
(令和 7 年度 51.6%)
- ・時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員をゼロにする。
- ・令和 8 年度～令和 11 年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 73%以上にする。(令和 7 年度 72.4%)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、90%以上にする。（令和7年度 89.3%）
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。（令和7年度 100%）
- ・小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、77%以上にする。（令和7年度 76.6%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を55%以上にする。（令和7年度 54.2%）
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答をする児童の割合を92%以上にする。（令和7年度 91.1%）

【学びを支える教育環境の充実】

- ・小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を前年度以上にする。（令和7年度 51.6%）
- ・時間外勤務時間について、年720時間を超えて実施する教員をゼロにする。
- ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。（令和7年度 72.4%）

3 本年度の自己評価結果の総括

※年度末に記入

大阪市立大成小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、90%以上にする。（令和7年度 89.3%） ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる（令和7年度 100%） ・小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、77%以上にする。（令和7年度 76.6%） 学校独自の年度目標 ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、86%以上にする。（令和7年度 85.4%） ・校内の児童アンケートにおいて、「学校が楽しいですか」の項目について、最も肯定的な「思う」と答える児童の割合を、前年度以上にする。（令和7年度 67.7%） ・校内の児童アンケートにおいて、「自分にはよいところや自信を持っていることがありますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、前年度以上にする。（令和7年度 84.6%） ・校内の児童アンケートにおいて、「学校のきまりやルールを守っていますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、前年度以上にする。（令和7年度 92.4%）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【①安全・安心な教育環境の実現】 「いじめアンケート」を学期に1回実施するとともに、学級担任が日頃から、児童の様子を細かく観察して、いじめが疑わしい時は、いじめ対策委員会を軸に丁寧に聞き取りを行う。（基本的な方向1）	
指標 「いじめアンケート」を学期に1回、確実に実施する。	
取組内容②【①安全・安心な教育環境の実現】 児童や保護者の思いを尊重しながら、チームアプローチで不登校傾向の児童の居場所づくりなどの支援を進める。SSR（スペシャルサポートルーム）の整備、活用を図る。（基本的な方向1）	

指標	不登校傾向の児童の状況が改善している。	
取組内容③	【①安全・安心な教育環境の実現】 「スクリーニング会議Ⅰ」を毎月実施して、児童の状況を全教職員で共通理解する。また、児童に関して関係諸機関と連携して、状況の改善に向けて取り組む。 (基本的な方向1)	
指標	「スクリーニング会議Ⅰ」を月1回実施し、児童の状況を把握し、また、児童に関して、保護者、および、関係諸機関と協議し、状況を改善させる。	
取組内容④	【①安全・安心な教育環境の実現】 きまりやルールを守る規範意識を高めて、道徳心や社会性を育成する。 (基本的な方向1)	
指標	月2回の朝会において、月目標に関する話をする。 きまりを守る指導を根気強く継続的に実施する。	
取組内容⑤	【②豊かな心の育成】 自己肯定感を高めるとともに、他者への理解や思いやりを育む。(基本的な方向2)	
指標	特別な教科「道徳」や、学級活動の時間において、学期に一回以上は「ピア・サポート」などの活動に取り組む。P B S (ポジティブ行動支援)を研修で学び、実践する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
次年度への改善点		

大阪市立大成小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ・ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。 ・ 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。 ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 55%以上にする。（令和 7 年度 54.2%） ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答をする児童の割合を 92%以上にする。（令和 7 年度 91.1%） 学校独自の年度目標 ・ 校内の児童アンケートにおいて、「自分の思いや考えを書いたり話したりするのが楽しいですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合を、前年度以上にする。（令和 7 年度 85.2%） ・ 校内の児童アンケートにおいて、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答をする児童の割合を 80%以上にする。 ・ 校内の児童アンケートにおいて、「『早寝・早起き・朝ご飯』そして、歯みがきを守ってしていますか」の項目において、肯定的に答える児童の割合を、前年度以上にする。（令和 7 年度 86.4%）	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【④誰一人取り残さない学力の向上】 算数科を研究教科とし、『数学的な見方・考え方を働かせる算数科学習～「主体的・対話的で深い学びに向かう授業」を目指して～』という研究主題で取り組みを進める。（基本的な方向 4） 指標 全学年が研究授業に取り組み、その後の研究討議会で討議を深めるとともに、全教員が授業を公開し、授業力・指導力を向上させる。	
取組内容②【④誰一人取り残さない学力の向上】 自主学習習慣の確立に向けた取り組みを通して、児童の学力向上をめざす。	
指標 週に一回以上は、自主学習を実施し、自主学習習慣の確立を図る。 1 年生は学習を進めてから随時開始する。また、内容もある程度提供しながら行う。	

取組内容③【④誰一人取り残さない学力の向上】 C－N E Tや英語主任と連携して、英語教育の強化を図る。 （基本的な方向4）	
指標 モジュール学習を週2回実施し、外国語活動や外国語の充実を図る。	
取組内容④【⑤健やかな体の育成】 「体づくり運動」を取り入れるなどして運動に慣れ親しみ、運動感覚を養う。 （基本的な方向5）	
指標 体育の学習時間や休み時間に、走力を養う場を設定したり、「シナプソロジーエクササイズ」を取り入れたりするなど「体づくり運動」に取り組む。年2回運動に関する強調週間を設け、運動の向上を図る。	
取組内容⑤【⑤健やかな体の育成】 睡眠や朝ご飯をはじめとする健康な生活について指導を充実し、子どもの健やかな成長を図る。 （基本的な方向5）	
指標 保健だよりや給食だより、委員会活動等を通して、生活習慣、手洗い・うがいの習慣の啓発を行うとともに、学期に1回、生活リズムに関する強調週間を設けて意識づけと習慣化を図る。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(様式 2)

大阪市立大成小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ・ 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を前年度以上にする。 (令和 7 年度 51.6%) ・ 時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員をゼロにする。 ・ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 73%以上にする。(令和 7 年度 72.4%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【⑥教育 D X（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 1 人 1 台学習者用端末など I C T 機器を活用した教育を推進する。 (基本的な方向 6)	
指標 1 人 1 台学習者用端末など I C T 機器を、日々活用する。	
取組内容②【⑦人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 働き方改革の推進に取り組み、働きやすい職場とする。 (基本的な方向 7)	
指標 長期休業明けの数日や教員研究等のある日の下校時刻を変更するなどの工夫をし、全職員、午後 5 時 3 0 分退勤とする「ゆとりの日」を週 2 回の設定を基本とする。	
取組内容③【⑧生涯学習の推進】 学校司書と連携して、学校図書館を活性化させる。 (基本的な方向 8)	
指標 学校図書館を各学級、週に 1 回以上活用し、一人当たりの貸出冊数を前年度以上にする。＜令和 7 年度 40.7 冊/人＞	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	